

次男坊判官（1955）

メディア 映画

ジャンル 時代劇

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1955/03/25

【解説】

前作「次男坊鴉」が好評だったことから製作された市川雷蔵主演作品で、本作では時代劇の定番である遠山の金さんに扮している。脚本は「地獄門」の衣笠貞之助、監督は「怪猫逢魔が辻」の加戸敏。刺青を入れるシーンもあり、新たな金さん像を創造しているのが特徴。

兄の遠山金之丞に家督を譲るため、旗本の次男の金四郎は武士を捨て、板橋宿にある蕎麦屋の居候となった。梅の三吉と知り合った金四郎は大いに飲んだあげく賭場を荒らし、寿女郎の部屋へ逃げ込んだ。そして彼女の父親に頼んで背中一面に遠山桜の刺青を入れるのだった。越後屋が江戸周辺の米を買い占めていることを知った金四郎は、越後屋一味と戦うのだったが、その背後には悪代官が控えていた…。

【クレジット】

監督 加戸敏

製作 酒井箴

企画 浅井昭三郎

脚本 衣笠貞之助

撮影 武田千吉郎

美術 太田誠一

音楽 山田栄一

出演 市川雷蔵

浅茅しのぶ

峰幸子

市川小太夫

潮万太郎